

輸出事業計画

※申請者名：飛騨ミート農業協同組合連合会コンソーシアム、品目：牛肉

1. 輸出における現状と課題

岐阜県では、飛騨牛の更なるブランド力向上、多様な販路拡大等を目的に、平成20年の香港を皮切りにアジアへの輸出を開始し、その後、EU、アメリカ、オーストラリア等をターゲットに加え輸出促進の取組みを進めてきた。この取組の核となる飛騨ミート農業協同組合連合会は、県内唯一の牛肉輸出取扱施設であり、平成22年タイ・マカオを皮切りにこれまで19の国・地域の牛肉輸出施設認定を取得してきた。特に動物福祉に配慮した牛のと畜や他国と比べ極めて厳しい衛生基準を求めるEU、アメリカ、オーストラリアなども輸出認定を受け、ターゲット国・地域として飛騨牛の輸出促進を図っている。

このような中で、岐阜県においては、飛騨牛生産者、食肉処理施設、食肉輸出事業者等が一体となった組織は、現在、設立されておらず、食肉輸出事業者が各自で輸出先国の事業者やバイヤーを探し、輸出ルートの確立を図っており、輸出事業者の負担が大きくなっている。加えて、飛騨牛輸出に関する課題や問題点を共有する場などもないため、生産から流通まで一体的な動きを図ることができていなかった。

本コンソーシアムの設立により、生産者、食肉処理施設、食肉輸出事業者、関係機関が連携し、飛騨牛輸出の課題・問題を共有することで、産地一体となって更なる飛騨牛輸出につなげていくことが可能となる。

また、近年、輸出先での価格競争が激化し、価格面で負けるケースが増えてきているため、飛騨牛の輸出拡大を図るためには他産地との差別化を図り、飛騨牛ブランドを確立していく必要がある。

2. 輸出事業計画の取組内容

1. 輸出向け食肉処理施設（飛騨食肉センター）の整備及び維持

- (1) 輸出食肉施設の認定（19の国・地域 認定済）
- (2) 海外ニーズに対応した処理・加工施設の整備
- (3) 微生物検査及び残留物質等モニタリング検査の実施

2. 海外市場での飛騨牛ブランドの確立と他産地和牛との差別化

(1) コンソーシアムにおけるPR活動及び販売促進活動

① 飛騨牛PR用資材制作・配布

飛騨ミート牛肉加工・小割規格パンフレット

飛騨牛・飛騨ミート施設紹介DVD

ポータルサイトの構築・デジタルPRデータ

飛騨牛の歴史リーフレット

② ターゲット国における飛騨牛現地プロモーション・産地招聘

(2) 動物福祉対応及び血斑発生低減に向けた取組

① アニマルウェルフェアに係る検証・調査

家畜の取扱い・施設環境改善

AWに対応できる職員育成

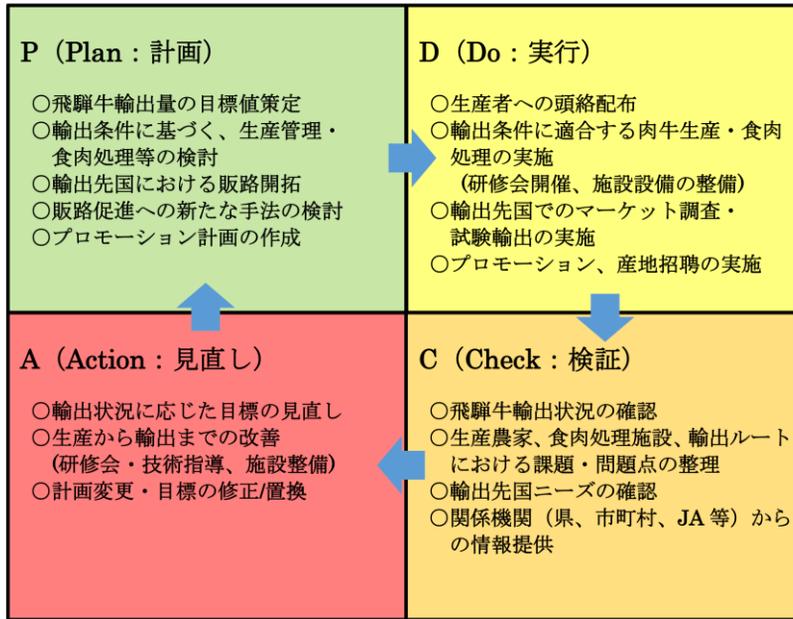
② 血斑発生低減に係る検証・調査

(3) 畜産物の流通・品質保持等に係る調査・試験・実証等

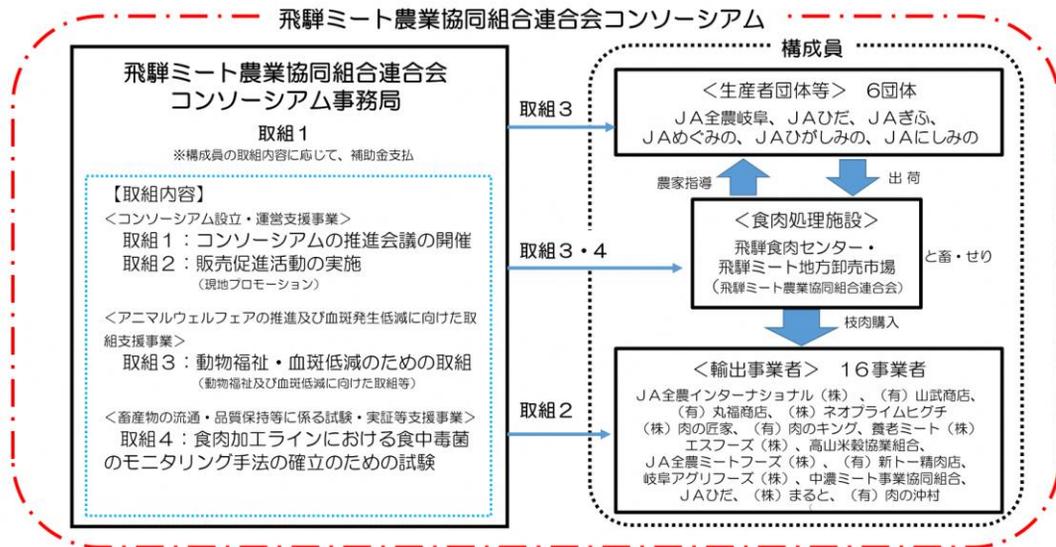
① 輸出先国やマーケットに対応できる衛生管理

② 小割加工のニーズに対応できる職員育成

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



飛騨ミート農業協同組合連合会コンソーシアム 組織構成



4. 輸出目標額

現状、ターゲット国への輸出額は約3.7億円である。
 今後、他産地に先立った小割加工や賞味期限延長及び
 チルド船便輸出の取組みや、飛騨牛プロモーション等の実施
 により、輸出額を令和8年度までに約6億円(165%増)
 を目指す。
 また、輸出先国の定める食肉取扱要綱や消費ニーズに適切に
 対応できるよう飛騨牛生産者及び輸出事業者と連携する。

牛肉	現状 (令和2年度)	目標 (令和8年度)
輸出額(千円)	365,876	602,500
輸出量(t)	38.0	62.6
輸出先国・地域	4か国	3か国